

1. 評価結果概要表

作成日 21 年 4 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	1891800011
法人名	社会福祉法人 健康会
事業所名	グループホームいけだ
所在地	福井県今立郡池田町常安 22-5 (電話) 0778-44-7760

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年4月28日

【情報提供票より】 (21 年 3 月 4 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人、非常勤 8人、常勤換算 7.8人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要 (3 月 4 日 現在)

利用者数	9 名	男性 6 名	女性 3 名
要介護1	3	要介護2	3
要介護3	3	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85.4 歳	最低 79 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	池田町診療所 山崎歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームのある池田町は自然に囲まれた山間地であり、高齢化率は高いが古くからの伝統芸能と新しい力で町おこしを積極的に行っている特色ある地域である。町民のほとんどが顔見知りで、気遣い合う人間関係は温かい。当ホームは開所して1年で、同敷地内にある併設の特別養護老人ホームは、10数年来、町民の施設として町民に親しまれており、両施設とも指定管理者に移行した現在も、町の財産として地域の方から温かく見守られている。入居者は日々の活動に地域性を活かした梅酒や干し柿作り等を行い、地域住民の協力を得て楽しんでいる。管理者は、介護実務経験が長く、認知症介護指導者としても活躍しており家族や職員の信頼が厚い。職員は家族の来訪には気持ち良く対応し、入居者の思いや家族の意向を把握し、サービスに反映させるよう取り組んでいる。また、地域の医療機関とも日常的に連携しており、終末期の看取りも行っている。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価の受審となる。</p>
重点項目	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は初めての自己評価にあたり、真摯に向き合い、全項目において取り組みの事実だけでなく、今後の取り組みについても考察し記述している。そして、「気付かされることが多く、課題が一杯ある」と述べている。ただ、他の職員の関わりは間接的で、評価に対する認識は十分とはいえない。今回の評価がサービス向上のための職員共通の課題となることを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は、町区長会長、町社会福祉協議会長、民生委員会、町保健福祉課長、家族代表が参加して2か月1回開催されている。会議ではホームでの日常の様子や活動を報告し、各委員からは情報提供や意見をもらいホームの運営や入居者の生活支援に反映させている。昨秋に開催された「エコキャンドル」のイベントにおけるボランティア参加も運営推進会議で討議され、利用者の活動につながっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>意見箱を玄関に設置しているが、要望等は家族から直接申し出られることが多い。家族の来訪時には、畳の間でお茶を出し落ち着いて話し合いができるように配慮している。年2回の家族交流会には、ほとんどの家族が参加し、親睦を図りながら意見交換を行っている。なお、今年からホーム便り“ほのぼの”を発行し、利用者の暮らしや行事案内を家族に知らせている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームでは、入居者が地域の人たちと同じように地域の中で生活することの意義を認識し、散歩等で地域住民と触れ合うことを日常活動として支援している。また、併設の特別養護老人ホームと合同で敬老会を開催したり、法話等を聞いたりすることが多いが、入居者が地域住民と同じようにボランティアとしてイベントに参加し、力を発揮することにも取り組んでいる。</p>

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のこれまでの暮らしや家族の思いを尊重し、その人らしく生きることが支えていきたいという趣旨の基本理念としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は地域の書道家に清書してもらったものを玄関正面に掲示するとともに、職員はケアの指針として自覚している。		日々のケアにおいて、理念が職員により一層意識され実践されるよう、ミーティング時に理念を共有することを期待したい。
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の特別養護老人ホームと合同で、子供や高齢者等、幅広い世代の町民との交流を日常的に行っている。また、昨年町民をあげて開催された「エコキャンドル」のイベントに準備等のボランティア活動に参加するなど、積極的に地域活動に取り組んでいる。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し、真摯に自己評価にあたっている。職員に対しても、ミーティングの場で評価項目を説明し、気づき等を話し合っているが、職員の評価に対する関わりは十分とはいえない。		全職員が評価の意義や目的を理解した上で、共に自己評価に取り組む、気づきの集約と課題の共有化を図ることを期待したい。
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長会長、民生委員会、町社会福祉協議事務局長、町役場、家族代表をメンバーに2か月に1回開催されている。会議では、ホームの活動報告や意見交換を行うほか、委員からの情報や助言をもとに、利用者の生活支援に反映させている。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者がホームに度々訪れて、さまざまな情報提供や支援をしてもらっている。町独自の施策である「すこやか介護用品支給制度」により、入居者には紙おむつが支給されている。		
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時は必ず入居者の状況を報告し、要望を聞いている。健康状態はその都度、金銭管理状況については毎月収支状況と通帳のコピーを送付し、家族に報告している。また、ホームだより“ほのぼの”を月に1回発行し、利用者の暮らしぶりを家族等に報告している。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関脇に設置しているが、要望等は職員に直接申し出られることが多い。年2回開催する家族交流会では、家族からの要望や意見を聞くだけでなく、管理者からも説明を行い、相互に理解し合うように努めている。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間は職員の異動はなく、顔なじみの関係が継続されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、全職員の資質向上を目指し、外部研修の参加も業務扱いで対応している。今後は、認知症介護実務者研修への参加も予定している。内部研修には大学講師の指導のもと、全職員がセンター方式による認知症のケアマネジメントについて取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は開所にあたり他の事業所に、職員の実習を依頼しており、その後も継続して交流をもち、情報交換等を行っている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者一人ひとりの気持ちや言葉を理解し、家族と連携しながら、入居者が安心し納得した上で入居となるよう取り組んでいる。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の戦争体験やかつての山仕事の苦労話に共感したり、ふきのとうの味噌作りや沢庵の煮物といった田舎料理を教えてもらったりと、利用者から多くのことを学んでいる。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の話もできるだけ聞きながら、本人の言葉や思いを把握し理解するように努めている。地域の人からも利用者に関する情報を得ることがある。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	従来の介護する側からの介護計画の立案から、センター方式のアセスメントシートを用いて、本人本位の介護計画となるように、順次取り組んでいる。職員のヒアリングから、「入居者が見えてくることで、積極的にケアできる」との感想も聞かれた。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況にあわせ、介護計画を見直している。現在、センター方式で用いるシートからそれぞれの利用者に合ったものを選択し、介護計画の見直しを順次行っている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の意向を受け、受診の帰りに自宅に立ち寄ったり、空腹の入居者におにぎり等の軽食を用意するなど、利用者のニーズに応じた柔軟な支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もこれまでのかかりつけ医を主治医とし、受診や情報提供等の支援をしている。ホームの協力医である町立診療所の医師による定期往診もあり、家族の安心につながっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が寝たきり状態となり重度化した場合には、主治医からの十分な説明を受け、家族と職員で話し合い、馴染んできたホームで終末期を支えたケースがあり、今後も看取りを行っていきいたいと考えている。		
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の苦言に対し否定や言い訳をすることなく受け入れていた様子を見ることができた。年長者の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底しており、個人情報の管理も適切である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の活動について声かけはするが無理強いせず、本人の希望に沿ってそれぞれのペースで過ごせるよう支援している。廊下で歩行訓練する人、居室でテレビを見ている夫婦等、思い思いに過ごしている様子が見受けられた。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには、地元の郷土料理や田舎料理を取り入れ、食材も地元のコシヒカリや軟らかいロース肉を使用し、食事をおいしく楽しめるように支援している。午後のおやつ作りは、入居者も職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は空調設備のあるゆったりとした家庭風呂で、職員は入居者個別での入浴を支援している。時間帯制限はあるが、水曜日以外は毎日入浴できる柔軟な対応がとられている。		
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム周辺の草取り、干し柿や梅酒作り等、季節に応じた作業や楽しみを支援している。また、地元の「池田音頭」のDVDは利用者に好評で、映像に合わせて一緒に手拍子したり、踊ったりして楽しんでいる。本人と家族の希望で夕食にビールを飲む入居者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は、日常的に近隣地域を散歩し、地域の人たちに挨拶したり、会話したりして楽しんでいる。また、併設の特別養護老人ホームには、行事や地域との交流のたびに行き来している。		
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が構造上死角となっており、入居者の出入りの把握が困難なことと、さらには、玄関横に急な斜面があることから、安全策として玄関と勝手口は施錠している。管理者は施錠の弊害を認識しており、改善の必要性を感じている。		鍵をかけずに安全に過ごせる見守り方法等について、運営者を含め家族会や運営推進会議でも協議し、改善することを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、併設の特別養護老人ホームと合同で年2回実施されている。地元の消防団も参加し、ホーム内の状況を見てもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は家庭的な献立を提供している。入居者の食事・水分摂取量を記録し、管理している。利用者の栄養改善が血液検査で確認されており、主治医の賞賛を得ている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内部を改装し、全体的に明るく清潔感がある。リビングから離れた廊下にはソファが設置され、入居者が休憩し語らう場となっている。食卓には春を告げるふきのとうやつくしが飾られ、季節感を楽しむ利用者の笑顔を見ることができた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くソファやテーブルを配置し、ゆったりくつろげる空間となっている。ベッド以外は本人が使い慣れたテーブルやイス、ソファ等を持ち込むことができ、利用者の居心地の良さに配慮している。		

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「尊厳のある暮らし～穏やかに誇りを持って暮らすことができることを目指して～」を掲げている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が一丸となるように正面玄関に掲示している		掲示するだけでなく日々実践できるように機会があるたびにその意味を振り返るようにする。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方や地域の方にはパンフレット(中に記載)をお渡しし、理解してもらえようとしている		独自の広報などを発行しもっと理解してもらえようしていきたい
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方から野菜を頂いたり、地域に出たときなど利用者の方のことを聞かれた時には遊びに来ていただけるように誘ってみる。		地域の方にもっと気軽な所であるように、もっと地域に出かけるように努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や地域で取り組んでいる「エコキャンドル」等のボランティアで参加させていただいた。		回数が少なく、もっとできることを探して地域の中で暮らしていることを実感して頂きたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度は実施できなかった		今年度は実施できなかったが、みんなで野菜を作って一人暮らしの方や施設の方に新鮮な野菜を提供できたらと考えている
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めてということで、十分な理解はできていないと思うが、私たち職員にとっても意義のあることだと感じている		評価を真摯に受け止め、今後のサービスの質の向上にむけ職員が一丸となって取り組んでいきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、いいアイデアを頂いている。そのアイデアを利用者の方の支援につなげている。		今後も利用者の方の支援につなげたい

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当職員がよく訪問していただいている。その都度情報を頂きながらサービスの質の向上につなげるようにしている。		今後もサービスの質の向上につなげていきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に随時研修に参加してもらうようにしている。「しあわせネット」の活用等		研修も全員が参加できるわけではないので、職員会議等を利用して勉強会をしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に随時研修に参加してもらうようにしている。		研修も全員が参加できるわけではないので、職員会議等を利用して勉強会をしていきたい。
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、時間が許す限り契約書を一緒に読んで説明させていただいている。		相手が十分に理解や納得しているかは疑問である。もっと丁寧な説明を心がけるよう取り組んでいきたい
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決に向けて、第三者委員の設置、要綱、記録等整備している		苦情だけでなく利用者や家族からの要望などを取り上げ言いやすい関係を築いていけるよう取り組んでいきたい。(広報等の利用)
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理については、毎月通帳と領収書のコピーを請求明細書とともに送付。健康状態についてはその都度報告。		利用者の方の生活がわかるように広報の作成に取り組みたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決に向けて、第三者委員の設置、要綱、記録等整備している		苦情だけでなく利用者や家族からの要望などを取り上げ言いやすい関係を築いていけるよう取り組んでいきたい。(広報等の利用)
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で改善できるところは、皆で話し合っ改善できるようにしている。また、改善できないところは施設長と相談し判断を委ねている。		もっと職員といいやすい雰囲気作りに心がけていきたい
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応が取れるよう職員配置をしている		今後も柔軟な職員配置が取れるよう努めていきたい
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、1年目ということで職員の異動は考えていない		職員の異動に関しては十分考慮していきたい。

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては「勤務」扱いにしている。施設の向上に努めて欲しいと考えている		今後も施設の向上のために職員の研修は確保していきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワーク作りは必要と考えている。あらゆる勉強会等にも参加しやすいよう取り組んでいる		今後も施設の向上のために職員が参加しやすい取り組みを行ってほしい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会を利用して職員同士のコミュニケーションを円滑に図れるような取組を行っている		今後も職員が働きやすい環境を整えていきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	時間外や休日出勤など管理者にチェックしてもらい、手当が出せるようにしている		個々の努力等理解できるように職員とのコミュニケーションを図ってほしい
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回時に聞く努力が足りなかった		センター方式を利用したい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一部の家族の方からは聞くことができたが、初回時に伺うことができなかった方もあった		センター方式を利用したい
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときには、できるだけ希望にあうサービスがあることをお伝えするようにしている		今後も希望にあうサービスをお伝えできるよう勉強していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方には本当にお世話になっている。足を運んでいただいたり、電話で対応して頂くなど馴染んでいただけるよう一緒に協力していただいている		今後も家族の方の協力は欠かせない。協力していただけるよう職員も家族の方の信頼を築いていきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式を12月から取り組んでいる。取り組むことによって本当に学ぶことが多くなった。		今後も取り組んでいきたい

項目 番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方にとって家族の存在は絶対である。面会時や電話など報告はするようにしている		今後も家族の方への報告は密にしていきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者の関係は良好と感じている。		今後も良好な関係が継続できるよう支援していきたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所が理解していない方がいる		センター方式を利用して全員の方の馴染みの関係を把握していきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方同士が孤立しないようできるだけ食堂などみんなが集う場所に出てもらおうようにしたり、職員の言葉掛けにも注意している		今後も孤立しないよう配慮していきたい
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者の方に面会に行ったり、家族の方にはなにかあったら連絡してもらおうようにお願いしている		今後も継続していきたい
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	12月からセンター方式を始めたので十分ではない		今後全員の方に取り組んでいく
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	12月からセンター方式を始めたので十分ではない		今後全員の方に取り組んでいく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	12月からセンター方式を始めたので十分ではない		今後全員の方に取り組んでいく
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	12月からセンター方式を始めたので十分ではない		今後全員の方に取り組んでいく

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	12月からセンター方式を始めたので十分ではない		今後全員の方に取り組んでいく
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	12月からセンター方式を始めたので十分ではない		今後全員の方に取り組んでいく
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて関係機関と協力していく方向である		今後も必要に応じて関係機関と協力していく方向である
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	サービス事業者には利用者の方の情報を得ることで馴染みの生活が送れるよう協力してもらっている		今後も必要に応じて情報を得るようにしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はないが今後必要に応じて協働していきたい		今後必要に応じた対応をしていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の方が今までのかかりつけの医師にそのままお願いしている		今後もかかりつけ医は大事にしていきたい
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	以前、専門の認知症医に相談に行ったが利用者の方が抵抗されたため受診までは至らなかった。		主治医の医師が認知症についても適切な指導をいただいているのでそのままお願いしたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の看護職員や地域の看護師等とも相談しながら、日常の健康管理について助言を受けている		今後も関係を築いていきたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した日の当日もしくは翌日には職員が必ず行くようにし、当施設での様子を伝えるようにしている		センター方式を利用することで、さらに誰が見ても情報がわかるようにしていきたい。

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	主治医や家族の方とよく相談し重度化した場合や終末期など安心して生活できるよう支援している		今後も家族や主治医と連携しながら安心して生活が送れるよう支援していきたい
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	主治医から在宅酸素(ホット)等の導入することなど当施設でできることは検討している		今後も当施設でできることは検討し、積極的に取り組んでいきたい
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居の際、家族の方へはできるだけ馴染んだ家具や道具などもってきてもらうようにしている		今後も利用者のダメージを極力防ぐ努力をしていきたい
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	プライバシーの確保については職員に徹底を促している。個人情報の取り扱いも十分注意している		今後も徹底していきたい
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	自己決定は支援するようにしている		今後も支援していきたい
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	なかなか希望に沿って支援できていない		センター方式を利用して希望に沿った生活が送れるよう支援していきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人の望む店かどうか理解していない。地元の理髪店にお願いしている		できるだけ本人の望むように支援していきたい
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	一部の利用者の方とは一緒に行っている		食事が楽しくおいしく頂けるように支援していきたい
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	嗜好については応じるようにしている		今後も一人ひとりの嗜好を大切にしていきたい

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	排泄のパターンを把握し、失禁しないよう声かけし誘導するなど支援している		今後も支援していきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は夜間入浴など行ってみたが、利用者の方から拒否されてしまい現在に至っている		楽しい入浴になるよう支援していきたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心配事などあまり本人に負担をかけないように支援している		今後も安眠できる支援をしていきたい
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できるだけ本人の笑顔が見られるよう支援している		センター方式を利用してもっともっと支援できるよう取り組んでいきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は持たないようにしていただいている。欲しいものがある場合はお預かりしている通帳から購入している		現在現金を持つことでトラブルが起きそうになったことがあるので、このまま通帳管理でお願いしたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて外出できるように支援している		今後も支援していきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方から希望があれば機会を作り支援している		今後も支援していきたい
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		今後も支援していきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地良く感じてもらえるよう工夫はしている		もっともっと気軽に来ていただける工夫をしていきたい

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる		今後も取り組んでいく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を行っている		施錠しなくても良い工夫を検討していきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在の把握や安全についても配慮している		今後も安心して生活が送れるよう支援していきたい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り上げる介護をするのではなく、危険を回避できる工夫を職員と話し合っている		今後も職員と話し合いながら危険を回避できる工夫に取り組んでいきたい
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設の事故委員と連携し事故防止に努めている		今後も事故防止に取り組んでいきたい
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生や応急手当などの講習を受けている		今後も講習会を行い職員全員周知徹底を図りたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防団の方に避難訓練等の参加をお願いしている		今後も協力を要請したい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況に応じて家族の方には説明している		今後も家族の方に理解していただけるよう取り組んでいきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の記録、医師への連絡等速やかに対応がとれるようにしている		今後も早期発見に努めていきたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との勉強会など開くことにより職員が理解できるよう努めている		今後も利用者の健康管理ができるよう努めていきたい

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や運動など便秘にならないような工夫をしている		便秘は生活に悪影響を与えている原因と考えているので、便秘にならないような工夫は今後も取り組んでいきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている		嫌がる利用者の方にとっての口腔ケアが課題である
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は大切に考えている。		栄養バランスはわからないが、医師から褒められている。今後もおいしい食事がとれるよう支援していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して研修への参加や予防接種など実施している		今後も取り組んでいきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食物、衛生管理など管理に努めている		今後も取り組んでいきたい
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にお花を置くなど和んでいただけるような工夫をしている		今後も取り組んでいきたい
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せるよう飾り付け等の工夫をしている		今後も取り組んでいきたい
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	死角箇所が何箇所かあることにより居場所の工夫をしている		家具の購入などもっと居場所の工夫をしていきたい
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については家族の方に任せてある		寂しい感もするので、居室についてもっと工夫が必要かもしれない
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	嫌な臭いがしないよう換気などの工夫をしている		今後も取り組んでいきたい

項目番号	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう工夫している		今後も取り組んでいきたい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力に応じて自立して生活できるよう支援している		今後も取り組んでいきたい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外で活動できるよう整備されている		空地の利用をしていきたい
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	グループホームいけだ(認知症対応型共同生活介護) 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)